

中学生広島平和教育研修



富士見中学校 2年 小鈴 ますず
植松 小

平和を創造する

私は広島平和研修に参加する前友人からとても大きな質問を預かりました。それは、「あなたにとって平和とは：？」です。私はこの質問を最大のテーマとして参加することを決めました。出発前の私が考える「平和」は、だれもが笑顔でいることでした。

本川小学校、袋町小学校の見学では、原爆投下当時の伝言板や太鼓、ガラス、服など被害状況がわかるものが展示されていて当時の人々の苦しみと熱線の威力を知りました。平和祈念式典では午前8時15分に黙とうをささげ、犠牲になられた方々の気持ちになって、平和を誓いました。七十一年前のあの日、たった一発の原子爆弾で広島島の街は地獄になり多くの人が亡くなった。その事実を実際に目で見たり、触れたりして、より身近に感じることができました。証言の集いでは、涙ながらに当時のことを語ってくださいました。

思い出したくない、あまりにも辛い過去を鮮明に、わかりやすく伝えてくださる姿に感謝の思いでいっぱいになりました。親のおかげという言葉が心に強く残り、自分がどれだけ親に大切にされているかを実感しました。涙をこぼしながら「二度と戦争をしてはいけない」、「悲しい思いを二度としない」、「核のない世界を」とうたったえられ、どれだけ戦争が大切なものを奪ったのかを理解し、戦争を二度としないという強い決意を持つことができました。私たちに語ってくださいました方は原爆の影響でガンを発症し、今も大量に薬を飲んでいられるとお聞きしました。どんなに辛いことがあってもたくましく生きる姿に強さを感じました。

平和記念資料館では、原爆投下後の街と人を再現した展示があり、とても衝撃的でした。燃えさかる街をボロボロの服に裸足、ひどい火傷を負った人々が水や安全な場所を求め歩きまわったと想像すると、まさに地獄だったと思いきなり辛くなりました。

他にもたくさんさんの遺品が展示されていており、言葉では言い表すことのできない恐ろしさや辛さを感じ取りました。放射線については、私が一番強く学びたいと考える所でした。放射線の恐ろしさは、目

に見えず、においもない所にあります。被爆当時、比較的外傷の少なかつた人が何年か経ってから放射線被爆の症状が出て亡くなっていく事に核兵器への怒りがあふれてきました。

このように様々な遺品や証言を聞いていくうちに私の中の「平和」が変わりました。以前の私はだれもが笑顔でいることが平和だと考えていましたが、研修に参加して、平和とは人間が人間らしく生き、明日に希望をもつことだと気がつきました。それは、一発の原爆で全てを失ったことや、「人間らしく生きることも死ぬこともできない」という被爆者の方の言葉から来ています。

私が考える新たな「平和」を守り、創っていくために今、私ができることを考えてみました。

まずは今回学び、感じたことを多くの人に広め、伝えていくことです。一人一人は小さくても同じ思いの人みんなで立ち上げれば、何かが変わるはずですよ。

次は私の目標である科学者になって、放射線について研究し、科学の面から核廃絶を推進していきたいと思えます。私たちに語ってくださいました方に「核廃絶を進めていく」と伝えたら、笑顔になってくださいました。

今回の研修で学んだことを生かし、平和な世界を私たちが創っていきます。

